

経営発達支援事業評価シート【令和7年度版】

Ⅱ. 地域経済の活性化に資する取組

評価A：目標以上の実績、評価B：概ね目標に近い実績、評価C：概ね目標の半分程度の実績、評価D：ほぼ実績なし

認定計画の事業内容 ※認定計画の事業内容を全て記載すること	本年度 補助金 活用	目標数値（過年度は実績値）					本年度実績		実施内容ともたらされた効果や今後の対応等	次年度 補助金 活用有無	評価委員のコメント （評価・見直し等の意見）	
		R03	R04	R05	R06	R07	実績値	自己評価				
地域イベントによる 地域経済活性化	—	0回	1回	1回	1回	1回	1回	A	実施内容 （補助金活用含む）	「とうま蟠龍まつり」を開催。地域の賑わい創出と交流人口の拡大を図った。会場では、町内事業者による飲食・物販ブースの出店や各種催しを実施し、多くの来場者で賑わった。	—	
									もたらされた 効果や課題	多くの来場者が訪れ、地域の賑わい創出と交流人口の拡大に寄与した。また、当会会員9事業者（うち小規模事業者8者）が出店し、売上向上や自社商品のPR、新規顧客の獲得など域内経済の活性化に繋がった。		
									今後の対応等 （補助金活用含む）	引き続き「とうま蟠龍まつり」を開催し、地域の賑わい創出と交流人口の拡大を図ると共に、会員事業者の積極的な出店を促進し、地域経済の活性化に繋げていく。		
経済懇談会の開催	—	0回	1回	1回	1回	1回	0回	D	実施内容 （補助金活用含む）	令和7年度は、経済懇談会の開催に向けた調整を行ったものの、開催時期や議題の調整が整わず、実施には至らなかった。一方で、「でんすけペイ」の利用状況については、TOPPANとの月1回の定例会に当麻町まちづくり推進課が参加し、利用状況や運用状況の共有を行った。	—	
									もたらされた 効果や課題	「でんすけペイ」の利用状況については、TOPPANとの定例会を通じて当麻町まちづくり推進課との情報共有を図ることができたが、経済懇談会を開催できなかったため、地域経済全般の動向や課題について、関係機関と幅広く意見交換を行う機会を設けることができなかった。		
									今後の対応等 （補助金活用含む）	次年度は、TOPPANとの定例会による「でんすけペイ」の利用状況や運用状況の共有を継続すると共に、当麻町、当麻町商工会、当麻町観光協会、当麻農業協同組合、当麻町森林組合等の関係機関・経済団体が参加する経済懇談会を開催し、地域経済や地域課題に関する情報共有と意見交換を行うことで、関係機関相互の連携強化と地域経済の活性化を図る。		
地域資源を活用 した特産品開発	—	0回	1回	1回	1回	1回	1回	A	実施内容 （補助金活用含む）	地域資源を活用した特産品の需要拡大を目的として、9月に旭川駅構内で開催された「駅マルシェ2025」に4事業者（うち小規模事業者3者）が出展し、当麻町の特産品の販売及びPRを実施した。	—	
									もたらされた 効果や課題	当麻町の特産品を地域外へ広くPRすることができ、新たな販路開拓や認知度向上に繋がった。一方で、新たな特産品の開発や商品化までには至らず、地域資源を活用した新商品の創出に向けた支援が課題となった。		
									今後の対応等 （補助金活用含む）	当商工会の内部組織である「総務委員会」と協議を進めるとともに、事業者のニーズを把握しながら、地域資源を活用した新たな特産品の開発や商品化に向けた支援を行う。また、開発した商品の販路開拓やPRについても継続して支援していく。		
当麻町の情報発信強化	—	1回	1回	3回	3回	1回	4回	A	実施内容 （補助金活用含む）	当麻町が制作した「当麻町観光パンフレット」を活用するとともに、当会では町内の飲食店や観光スポット等を掲載した「食と観光のマップ」を配布し、来町者への情報提供を行った。また、伴走型小規模事業者支援推進事業を活用し、フリーペーパー「ライナー」において当麻町特集を掲載し、町内事業者や特産品、観光情報を広く発信した。さらに、当麻町商工会公式「YouTubeチャンネル」を活用し、町の魅力や地域資源に関する動画を配信するなど、多様な媒体を活用した情報発信を実施した。	—	
									もたらされた 効果や課題	紙媒体とデジタル媒体を組み合わせた情報発信を行うことで、町内外へ当麻町の魅力や観光情報、特産品を幅広く周知することができ、認知度向上や交流人口の拡大に寄与した。一方、「食と観光のマップ」は来町者や関係機関からの需要が高く、配布部数が不足する状況となったことから、必要部数を十分に確保できなかったことが課題となった。		
									今後の対応等 （補助金活用含む）	引き続き、観光パンフレットやフリーペーパー、YouTubeなど多様な媒体を活用した情報発信を継続すると共に、令和8年度においては「食と観光のマップ」を再制作し、配布部数を増やすことで、より多くの来町者や消費者へ当麻町の魅力を効果的に発信し、地域経済の活性化に繋げていく。		